

2023年12月12日 第477号

憲法共同センターNEWS

戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター
〒113-8462 文京区湯島 2-4-4 全労連会館 03-5842-5611 (FAX 5842-5620)
http://www.kyodo-center.jp mail: move@zenroren.gr.jp

憲法共同センター「9の日」宣伝

ハマスとイスラエルの戦闘はただちに中止!

市民と野党の共闘で大軍拡・大增税すすめる政治を変えよう!

太平洋戦争開戦から82年の12月8日昼、憲法共同センターは新宿駅西口地下で「9の日」宣伝を行い、8団体19人が参加しました。「軍拡・増税に反対する署名」には19人が、「憲法改悪を許さない全国署名」には11人が署名をしてくれました。

憲法会議の高橋信一事務局長は、「敵基地攻撃能力を保有し、戦争する国づくりが進められている。太平洋戦争開戦の時と同じような状況になっているのではないか。改憲反対、戦争反対と声をあげていこう」と呼びかけました。



日本共産党の本村伸子衆議院議員は、「ハマスとイスラエルの戦闘で多くのいのちが奪われているのを見ると胸が痛い。今すぐ停戦、ジェノサイドやめろと声をあげよう。岸田政権は大軍拡をすすめているが、軍事対軍事では悪循環に陥るだけ。憲法違反の暴走を食い止めるため声をあげよう」と訴えました。

全国革新懇の五十嵐仁代表世話人（法政大学名誉教授）はガザでの戦闘にふれ、「いまこの時にもいのちを失っている人が存在することを忘れてはいけない。アメリカに忖度せず、パレスチナとイスラエルに両方にパイプを持つ日本政府が戦闘をやめさせるために積極的に役割を果たすべきだ」と強調。「昨日、市民連合が共産党、立憲民主党、社民党、れいわ新選組、沖縄の風に対し次期総選挙にむけ5項目の野党共通政策を要望した。市民と野党の共闘で大軍拡・大增税をすすめる政治を変えよう」と訴えました。

全日本民医連の山本淑子事務局次長は、「ガザでは病院が攻撃され、保育器が使えず早産児が死亡するなどの報道を見るとつらい。いのち第一、ただちに停戦との声を広げよう。南西諸島へのミサイル配備、自衛隊基地の強靱化が進められ、憲法違反の敵基地攻撃能力をもつ大軍拡が進められる一方でいのちを壊す政治が横行している。憲法を守り平和的生存権が保障される社会に変えよう」と訴えました。

民青同盟の青山昴平中央常任委員は、「岸田政権は、軍事費を5年で43兆円にし、軍事優先の戦争する国にしようとしている。それは、アメリカのIAMD（統合防空ミサイル防衛）に参加するためであり、日本を守るためのものではなく、アメリカの指揮のもと他国を攻撃できるようにするためだ」と強調しました。

「パレスチナに平和を!」全国一斉行動 国会正門前大行動に 1500 人

「ガザの状況を想像してほしい」ジェノサイドとめよう! 即時停戦を!

「戦争やめよう!」世界中で声をあげ続けよう!

パレスチナに平和を!緊急行動は 12 月 10 日、国会正門前大行動を行い、1500 人が参加しました。この行動は、「北海道パレスチナ医療奉仕団」の団長を務める札幌市の猫塚義夫医師が全国一斉行動を呼びかけ、それに応え取り組まれました。日本共産党の小池晃参議院議員があいさつ。立憲民主党、社民党からのメッセージが紹介されました。



総がかり行動実行委員会共同代表の藤本泰成さんが主催者あいさつ。「戦争をさせない 1000 人委員会のホームページに名古屋学院大学の飯島

滋明教授の文章が掲載されている。その中に、『戦争』の悲惨さを知れば、『戦争』や『改憲』を簡単に口にできなくなること、ユネスコ憲章前文に『戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かねばならない』とあることが書かれている」と紹介。「2014 年に安保法制が閣議決定され、現在、改憲が狙われている。戦争と人権・尊厳は相いれない。戦争をやめよう、戦争をやめよう」とありったけの思いを込めて叫ぼう」と呼びかけました。

日本国際ボランティアセンター事務局長の伊藤解子さんは、「支援を届けたくても、人も物資も枯渇してきている。即時停戦しかない。ガザの人たちからのメッセージが変わってきている。『まだ生きている』と。心がつぶれそうで祈ることしかできない。引き続きがんばっていこう」と訴えました。

「北海道パレスチナ医療奉仕団」の猫塚義夫医師が電話で発言。「全国一斉の行動を呼びかけた。札幌では 300 人が参加し集會とデモを行った。みんなで声をあげ、曖昧な態度しかとらない岸田首相に圧力をかけていきたい。ガザの解放、パレスチナの平和を求める支援を続けていきたい」と語りました。

千葉大学の栗田禎子教授は、「アメリカの戦争のやり方は、テロリストやならず者国家とレッテルを貼り、自衛のためと無差別に攻撃するジェノサイドだ。安保 3 文書を決定し敵基地攻撃能力を行使するのもアメリカの戦争と同じやり方だ」と指摘。「私たちの運動が停戦にむけ影響を与えている。日本政府はアメリカ政府に対し、『停戦を求めるべき』と働きかけるべき」と強調しました。

パレスチナのみなさんからは、1 万 7000 人以上が犠牲になっているが、一人ひとりのいのちは数字では表せないこと、家族がなくなった時のこと、10 回以上も死にかけている青年のこと、体がバラバラになってもわかるように子どもたちの腕に足に胸に名前を書く母親のことなど悲惨な状況・ガザからのメッセージが語られました。「現代社会でこんなことが起こるんだろうかと想像できないだろうが、想像してほしい。子どものからだに名前を書く時、母親は何と説明して書くのか想像してほしい」。

行動提起を総がかり行動実行委員会共同代表の小田川義和憲法共同センター共同代表が行いました。